

プレスリリース

Eclipse がソフトウェアデファインドビークルに関するワーキンググループを設立

ETAS が **Bosch** を代表して参加

ソフトウェアデファインドビークルの実現に向け、オープンソースのワーキンググループで連携

シュトゥットガルト/ドイツ、**2022年5月5日** – 車載用のベーシックソフトウェア、ミドルウェア、および開発ツールを供給する **ETAS** は、ソフトウェアデファインドビークルの実現に向けて **Eclipse Foundation** が設立した新しいワーキンググループの戦略的メンバーとして、**Bosch** を代表して参加します。

このワーキンググループは、**ETAS GmbH** とその親会社である **Robert Bosch GmbH** 主導のもとに設立されました。**Bosch** は今年、車載およびクラウド向けのクロスドメインソフトウェアの開発機能を **ETAS** の傘下に統合しました。

世界最大のオープンソースコミュニティの1つである **Eclipse Foundation** は、「ソフトウェアデファインドビークル (SDV) 向けワーキンググループ」の設立を発表しました。その目的は、「コードファースト」型のアプローチを用いて、自動車業界初のソフトウェアスタックの1つを構築することです。これには、ソフトウェアデファインドビークルの中核機能および関連する開発ツールが含まれ、車両開発環境への実装を希望するあらゆる企業が利用できます。本ワーキンググループは、目標の実現に貢献したいと考えるすべての企業に対して門戸が開かれています。

ETAS GmbH の取締役会長である **Christoph Hartung** は、「ソフトウェアデファインドビークルの開発

はさまざまな企業間の協力と活気に満ちたオープンソースコミュニティに基づいて行われるべきだという信念のもと、このワーキンググループが設立されました。当社の量産に関する長年の経験と車載プラットフォームソフトウェア開発の専門知識をコミュニティに参加する各社と共有しながら、各社ごとの知識や専門技術からも利益を得られることを期待しています。」と述べています。

ソフトウェアデファインドビークル向けエコシステム開発担当取締役でありワーキンググループの運営委員会のメンバーでもある **Ansgar Lindwedel** は、「このオープンソース構想の成功にとって重要なのは、開発技術に注力することです。Iceoryx、Kanto、および Kuksa など、現在進行中の多くのオープンソース IoT プロジェクトにおいて、パートナー各社と共に協業し、既に素晴らしい成果を挙げています。今後は、ソフトウェアデファインドビークルの発展のため、この成果をワーキンググループ内の新しいプロジェクトで活用したいと考えています」と語っています。

ETAS について

1994 年に設立された **ETAS GmbH** は、ボッシュ・グループの完全子会社であり、欧州、北米、南米、アジアの 12 か国に海外営業拠点を展開しています。**ETAS** は、車載用ベーシックソフトウェア、ミドルウェア、およびソフトウェアデファインドビークル向けの開発ツールといった多彩なポートフォリオを提供し、自動車メーカーやサプライヤーの開発・運用の効率向上を支援しています。当社はまた、**ESCRYPT** のブランドを通じて、自動車分野に特化した包括的なサイバーセキュリティソリューションを提供しています。

詳細については、www.etas.com を参照してください。